



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

下痢

一口に下痢といってもさまざま原因があります。感染性のものではノロウイルスやロタウイルスなどのウイルス類、O157などの大腸菌類や腸炎ビブリオなどの細菌類が下痢の原因となり、感染性以外のものでは、食品アレルギーや暴飲暴食、過敏性腸症候群などの病気、ストレス、薬剤などが原因となります。

症状の表れ方は、短期間で治まるもの、2週間以上の長期にわたるもの、繰り返し表れるもの、発熱や嘔吐、下血など他の症状を伴うものがあり、下痢の起こる原因によって症状の表れ方に違いが出ます。感染による下痢のうち、ウイルス類は小児が、細菌類は成人が多いといわれており、発病するまでの期間は1〜7日程度までで、下痢以外にも腹痛や嘔吐、発熱などの症状が起こることがあります。感染による下痢

の治療は自然治癒が基本で、原因菌などが体内からいなくなれば症状は治まります。症状のある間は、水分とミネラル分を補給し、腹痛には鎮けい薬、嘔吐には吐き気止めの薬を使いますが、下痢止めの薬は原因菌を体内に長くとどめておくことにもつながるので、あまり使われません。乳酸菌などの整腸薬は腸内環境の改善を図るために使われることもあります。また、毒素を出すタイプの細菌では、細菌が死ぬことで毒素が一気に放出されて症状が悪化するおそれがあるため、抗菌薬は使われませんが、毒素を出さないタイプの細菌の場合は使われることもあります。感染性以外の下痢のうち、暴飲暴食や食品アレルギーなどの場合は、腹痛は起こりますが、発熱や嘔吐が起こることは少なく、その原因を取り除けば症状は改善します。たとえば、暴飲暴食を避ける、アレルギーであれば原因食品を避けるなどです。下痢止めの薬を使っても症

状は改善し、腸の動きを抑える薬や腸粘膜の炎症を抑える薬が使われたりしますが、アレルギーの原因食物が体内に残っているときは、感染性の場合と同じように下痢止めは服用しないほうがよいでしょう。

過敏性腸症候群などの病気やストレスの場合は、頭痛や食欲不振、不眠などの精神症状を伴うこともあり、下痢が長く続いたり、繰り返したりします。医療機関での治療が必要な場合もありますので、なるべく早く受診してください。

薬剤が原因の下痢もあります。代表的なものに抗菌薬があり、抗菌薬が腸の中に常に住んでいる細菌にも作用し、腸内環境を変えることで下痢が起こります。ほかにも下痢の副作用を起こす薬はありますが、下痢が起こったからといって勝手に服用を中止せず、医師や薬剤師に相談してください。

(北区 薬局エヒラファーマシー)

松本 博志